

カコウコモリグモ

岡山県：準絶滅危惧

クモ目

Pardosa nojimai Tanaka

環境省：該当なし

コモリグモ科

選定理由

岡山県における既往記録は少ない。汽水域や海岸のヨシ原に生息する。このような環境は、開発により減少傾向にあると考えられる。

存続を脅かす要因

河川開発、海岸開発

分布状況

本州（静岡県、愛知県、三重県、大阪府、岡山県、島根県）、九州（熊本県）で記録がある。生息環境である河口域のヨシ原は、河川改修等により全国的に減少している。

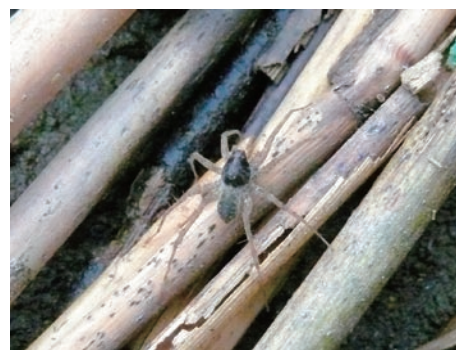
岡山県では模式産地の岡山市のほか、玉野市、瀬戸内市で記録がある。

生息情報

体長は雌が約7mm、雄が約5mm。頭胸部は暗赤褐色で、中央部は淡色。腹部は黒褐色で、黄褐色の斑がある。岡山県岡山市の旭川河川敷で採集された雄個体を模式標本として新種記載された。汽水域のヨシ原で、地面に枯れたヨシの茎が堆積するような場所に生息し、地上を徘徊する。和名は生息環境から命名された。

文献番号 142

(野嶋宏一)



撮影：野嶋 宏一



アシキタナミハグモ、ナガトナミハグモ種群(5種) 岡山県：留意

クモ目

Cybaeus ashikitaensis Komatsu*Cybaeus kuramotoi*-group

環境省：該当なし

ナミハグモ科

選定理由

移動能力が低いため、地理的分化が激しい。岡山県では各種が側所的に分布し、全て、岡山県が分布限界になっている。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

アシキタナミハグモは本州、九州、ナガトナミハグモ種群の5種は本州に分布する。各種は側所的に分布するが、一部では重複する。

岡山県では各種が側所的に分布する。ビゼンナミハグモは岡山県固有種。

生息情報

体長は各種とも概ね5～6mm、似た姿形で頭胸部は褐色、腹部は暗灰褐色で上面に淡黄色の山形斑がある。森林林床の倒木や石の下などに屈曲の緩いV字状の住居を作る。出入り口は両端2箇所にある。

特記事項

ナガトナミハグモ種群には、ビッチュウナミハグモ (*Cybaeus bitchuensis* Ihara & Nojima)、ダイセンナミハグモ (*C. daisen* Ihara & Nojima)、ジンセキナミハグモ (*C. jinsekiensis* Ihara)、ミマサカナミハグモ (*C. mimasaka* Ihara & Nojima)、ビゼンナミハグモ (*C. momotaro* Ihara & Nojima) を含む。

文献番号 36, 37

(野嶋宏一)



ダイセンナミハグモ

撮影：野嶋 宏一



●: アシキタナミハグモ
○: ビッチュウナミハグモ
▲: ダイセンナミハグモ
△: ジンセキナミハグモ
■: ミマサカナミハグモ
□: ビゼンナミハグモ